

180

サ

#



西國三十三番札所

とちもく 高野山 大住のつと  
人置六十八代のもろと丸さ八の八人らるるあはれ  
させあひんらるるあはれ 入置法皇とすまらあはれ  
うまのらんらんあはれさうのうらけをて實を奉玉中  
三月十七日ありあはれとさうわらうあはれ月朔のま  
みのあはれあはれさうあはれあはれあはれ  
あはれとさうあはれあはれあはれあはれあはれ  
あはれとさうあはれあはれあはれあはれあはれ

徳野修規の撰  
且つあはれ三十三番とすんらうあはれあはれあはれあはれ  
あはれとさうあはれあはれあはれあはれあはれあはれ



あまの  
あまの  
あまの  
あまの

あまの  
あまの  
あまの  
あまの

あまの  
あまの  
あまの  
あまの

あまの  
あまの  
あまの  
あまの



あまの  
あまの  
あまの  
あまの

あまの  
あまの  
あまの  
あまの

あまの  
あまの  
あまの  
あまの

あまの  
あまの  
あまの  
あまの



あまの  
あまの  
あまの  
あまの

あまの  
あまの  
あまの  
あまの

あまの  
あまの  
あまの  
あまの

あまの  
あまの  
あまの  
あまの



あまの  
あまの  
あまの  
あまの

あまの  
あまの  
あまの  
あまの

あまの  
あまの  
あまの  
あまの

あまの  
あまの  
あまの  
あまの





才  
人  
四  
人  
五

善  
男  
子  
は  
其  
の  
心  
を

其の  
心  
を

と  
り  
て

善  
男  
子  
の  
心  
を  
其  
の  
心  
を  
其  
の  
心  
を  
其  
の  
心  
を



才  
人  
四  
人  
五

善  
男  
子  
の  
心  
を

其の  
心  
を

と  
り  
て

善  
男  
子  
の  
心  
を  
其  
の  
心  
を  
其  
の  
心  
を  
其  
の  
心  
を



才  
人  
四  
人  
五

善  
男  
子  
の  
心  
を

其の  
心  
を

と  
り  
て

善  
男  
子  
の  
心  
を  
其  
の  
心  
を  
其  
の  
心  
を  
其  
の  
心  
を



才  
人  
四  
人  
五

善  
男  
子  
の  
心  
を

其の  
心  
を

と  
り  
て

善  
男  
子  
の  
心  
を  
其  
の  
心  
を  
其  
の  
心  
を  
其  
の  
心  
を



天照大神

天照大神の御魂

由

あて

のらぬとて、  
かきつけし、  
ちりひらひら



素戔嗚尊

素戔嗚尊の御魂

由

あて

あまのつみまは、  
あまのつみまは、  
あまのつみまは



ニギハヤヒ

ニギハヤヒの御魂

由

あて

あまのつみまは、  
あまのつみまは、  
あまのつみまは



素戔嗚尊

素戔嗚尊の御魂

由

あて

あまのつみまは、  
あまのつみまは、  
あまのつみまは



Handwritten text in the top left margin of the first page, including characters like '文' and '字'.

Main body of handwritten text in the top section of the first page, written in a cursive style.

Small handwritten text in the top right margin of the first page.

Two lines of handwritten text in the middle section of the first page, continuing the cursive script.



Handwritten text in the middle left margin of the first page.

Main body of handwritten text in the middle section of the first page.

Small handwritten text in the middle right margin of the first page.

Small handwritten text in the middle right margin of the first page.

Two lines of handwritten text in the bottom section of the first page.



Handwritten text in the top left margin of the second page.

Main body of handwritten text in the top section of the second page.

Small handwritten text in the top right margin of the second page.

Two lines of handwritten text in the middle section of the second page.



Handwritten text in the middle left margin of the second page.

Main body of handwritten text in the middle section of the second page.

Small handwritten text in the middle right margin of the second page.

Small handwritten text in the middle right margin of the second page.

Two lines of handwritten text in the bottom section of the second page.



宝光  
入道  
長三尺

世尊はあまのついで

宝光  
入道  
田向

六  
り

世尊の御言はまはるるをばわたりわと。  
ちのついであつたこととていふもよしあ



十寸  
六寸  
中  
く

世尊はあまのついで

宝光  
入道  
田向

六  
り

おのれをたたく事なれどもあ  
りてはつた人にもあつた



宝光  
入道  
長三尺

世尊の御言はまはるる

宝光  
入道  
田向

六  
り

おのれをたたく事なれどもあ  
りてはつた人にもあつた



宝光  
入道  
長三尺

世尊の御言はまはるる

宝光  
入道  
田向

六  
り

おのれをたたく事なれどもあ  
りてはつた人にもあつた







坐す  
すく  
すく  
坐す  
坐す  
坐す

茲者存念す

坐す  
坐す  
坐す

坐す  
坐す  
坐す

そのまゝのまゝの尊厳なるを  
いとせらるゝおのれを



坐す  
坐す  
坐す

世尊のまゝ

坐す  
坐す  
坐す

坐す  
坐す  
坐す

月日ごとく  
おのれを



坐す  
坐す  
坐す

世尊のまゝ

坐す  
坐す  
坐す

坐す  
坐す  
坐す

おのれを  
いとせらるゝおのれを



坐す  
坐す  
坐す

世尊のまゝ

坐す  
坐す  
坐す

坐す  
坐す  
坐す

おのれを  
いとせらるゝおのれを

本号  
しん  
の  
そく  
の  
た  
の  
た  
の  
た

英商岩谷硝子

英  
商  
の  
印

しん  
の  
た  
の  
た

くも雪のふりやうさび。  
せとらふふふふふふふふふふ

本号  
の  
た  
の  
た  
の  
た

世帯の土硝子

英  
商  
の  
印

しん  
の  
た  
の  
た

くも雪のふりやうさび。  
せとらふふふふふふふふふふ

本号  
の  
た  
の  
た  
の  
た

世帯の土硝子

英  
商  
の  
印

しん  
の  
た  
の  
た

くも雪のふりやうさび。  
せとらふふふふふふふふふふ

本号  
の  
た  
の  
た  
の  
た

世帯の土硝子

英  
商  
の  
印

しん  
の  
た  
の  
た



十八年  
上  
の  
き

世書  
の  
記  
二  
川平西宮のれきかみく

川平西宮のれきかみく  
らうのりうのり  
由ふれれて  
りまうま

この世書は  
かたじけなく  
からむ  
のりうのり  
まうま

まうまのり  
のりうのり  
まうま  
のりうのり  
まうま

この世書は  
かたじけなく  
からむ  
のりうのり  
まうま

# 坂東二松前新法印

印自某陽京川二  
新法印  
のりうのり  
まうま

永久二年庚午四月十八日  
打替  
夫  
のりうのり  
まうま

あひ下  
のりうのり  
まうま



十六  
八

菩薩摩訶薩  
摩訶薩摩訶薩

摩訶薩

摩訶薩摩訶薩摩訶薩摩訶薩  
摩訶薩摩訶薩摩訶薩摩訶薩



十六  
八

菩薩摩訶薩  
摩訶薩摩訶薩

摩訶薩

摩訶薩摩訶薩摩訶薩摩訶薩  
摩訶薩摩訶薩摩訶薩摩訶薩



十六  
八

菩薩摩訶薩  
摩訶薩摩訶薩

摩訶薩

摩訶薩摩訶薩摩訶薩摩訶薩  
摩訶薩摩訶薩摩訶薩摩訶薩



十六  
八

菩薩摩訶薩  
摩訶薩摩訶薩

摩訶薩

摩訶薩摩訶薩摩訶薩摩訶薩  
摩訶薩摩訶薩摩訶薩摩訶薩



土の八  
ういゆ  
うまの  
うまの

高きうまのうまのうまの

世に  
うまの  
うまの  
うまの

うまのうまのうまのうまの  
うまのうまのうまのうまの



土の八  
ういゆ  
うまの  
うまの

高きうまのうまのうまの

世に  
うまの  
うまの  
うまの

うまのうまのうまのうまの  
うまのうまのうまのうまの



土の八  
ういゆ  
うまの  
うまの

高きうまのうまのうまの

世に  
うまの  
うまの  
うまの

うまのうまのうまのうまの  
うまのうまのうまのうまの



土の八  
ういゆ  
うまの  
うまの

高きうまのうまのうまの

世に  
うまの  
うまの  
うまの

うまのうまのうまのうまの  
うまのうまのうまのうまの





三ノノノノ  
ノノノノ  
ノノノノ

十善を修め奉る

世ハ十善ノ人ハ  
ノノノノ  
ノノノノ

ノノノノ  
ノノノノ  
ノノノノ

毎日を修め奉る  
心をおろそかにせず



ノノノノ  
ノノノノ

十善を修め奉る

ノノノノ  
ノノノノ  
ノノノノ

心を正しくし  
徳を積み重ね



ノノノノ  
ノノノノ

十善を修め奉る

ノノノノ  
ノノノノ

心を正しくし  
徳を積み重ね



ノノノノ  
ノノノノ

十善を修め奉る

ノノノノ  
ノノノノ

心を正しくし  
徳を積み重ね





又由  
此法

十善業のつら

又由  
此法  
十善業のつら

あまのついでに  
あまのついでに  
あまのついでに  
あまのついでに



又由  
此法

十善業のつら

又由  
此法

あまのついでに  
あまのついでに  
あまのついでに  
あまのついでに



又由  
此法

十善業のつら

又由  
此法

あまのついでに  
あまのついでに  
あまのついでに  
あまのついでに



又由  
此法

十善業のつら

又由  
此法

あまのついでに  
あまのついでに  
あまのついでに  
あまのついでに



十人  
十一人  
十二人

北極星の光

十一人

あつちのうらみ  
かきつけのむらりぶも  
あつちのうらみ



十一人  
十二人

北極星の光

十一人

あつちのうらみ  
かきつけのむらりぶも  
あつちのうらみ



十一人  
十二人

北極星の光

十一人

あつちのうらみ  
かきつけのむらりぶも  
あつちのうらみ



十一人  
十二人

北極星の光

十一人

あつちのうらみ  
かきつけのむらりぶも  
あつちのうらみ



あまの

あまの

三ツ

あまの



あまの

あまの

あまの

あまの



あまの

あまの

あまの

あまの



あまの

あまの

あまの

あまの



土久  
乃徳

花鳥園のまゝ

七  
三  
二  
一  
リ  
ル  
ル  
ル

らむとてまのさかづきもあはれ  
うらうらむもあはれとてうらむ



乃徳  
乃徳

花鳥園のまゝ

七  
三  
二  
一  
リ  
ル  
ル  
ル

ちむとのかうしかうかからわ  
めらふとてうらむとてうらむ



乃徳  
乃徳

貝のまゝわらふのまゝとて  
つむとてうらむとてうらむ



乃徳  
乃徳

ひらきもまのさかづきもあはれ  
このまゝとてうらむとてうらむ

七  
三  
二  
一  
リ  
ル  
ル  
ル



日本  
の  
こと  
 北条高時  
ちかたか  
たかひ  
つよし

七  
四  
五

ろとらてをまわあどきこのしら  
 ううううううううううううう  
 身をあらううううううううう  
 乃法合ふしをううううううう

ぼたのうううううううううう  
 われのきううううううううう  
 ころたあをうううううううう  
 このうううううううううう

日本橋うううううううううう  
 物あをうううううううううう  
 太息あかあうううううううう  
 うううううううううううう  
 うううううううううううう  
 うううううううううううう



空の  
三つ  
八つ

一とん

別當  
三つ  
八つ

わづるむひとまはるぬのりたお  
こころまほぬのらららみ



空の  
三つ  
八つ

二とん

別當  
三つ  
八つ

わづるむたのそとまはるぬのりたお  
こころまほぬのらららみ



空の  
三つ  
八つ

三とん

別當  
三つ  
八つ

わづるむたのそとまはるぬのりたお  
こころまほぬのらららみ



空の  
三つ  
八つ

四とん

別當  
三つ  
八つ

わづるむたのそとまはるぬのりたお  
こころまほぬのらららみ



三尊  
三尊  
三尊

おんごうたげう

日家  
五七六  
サトハ

らちれあらもあはごうのさう  
トトスひのちひあのみ



三尊  
三尊  
三尊

おんごうたげう

日家  
五七六  
サトハ

らちれあらもあはごうのさう  
トトスひのちひあのみ



三尊  
三尊  
三尊

おんごうたげう

日家  
五七六  
サトハ

らちれあらもあはごうのさう  
トトスひのちひあのみ



三尊  
三尊  
三尊

おんごうたげう

日家  
五七六  
サトハ

らちれあらもあはごうのさう  
トトスひのちひあのみ



外  
八日  
八  
八

なまんおちあ

外  
十  
十三

わらえそひらひら  
うたのはひらひら



外  
八日  
八  
八

十んたひと

外  
十  
十三

おまひらひら  
おまひらひら



外  
八日  
八  
八

土んたひと

外  
十  
十三

おまひらひら  
おまひらひら



外  
八日  
八  
八

土んたひと

外  
十  
十三

おまひらひら  
おまひらひら





坐入  
坐入  
坐入  
坐入

坐入  
坐入  
坐入  
坐入

坐入  
坐入  
坐入  
坐入

坐入  
坐入  
坐入  
坐入  
坐入  
坐入  
坐入  
坐入



坐入  
坐入  
坐入  
坐入

坐入  
坐入  
坐入  
坐入

坐入  
坐入  
坐入  
坐入

坐入  
坐入  
坐入  
坐入  
坐入  
坐入  
坐入  
坐入



坐入  
坐入  
坐入  
坐入

坐入  
坐入  
坐入  
坐入

坐入  
坐入  
坐入  
坐入

坐入  
坐入  
坐入  
坐入  
坐入  
坐入  
坐入  
坐入



坐入  
坐入  
坐入  
坐入

坐入  
坐入  
坐入  
坐入

坐入  
坐入  
坐入  
坐入

坐入  
坐入  
坐入  
坐入  
坐入  
坐入  
坐入  
坐入



十一人  
不問作  
坐又立  
坐立  
三有坐人

十七人なるべし

變拍  
十一  
二十

あまのうらみかみしりてかへりてあまのうら  
みかみしりてあまのうらみかみしりてあまのうら



十一人  
不問作  
坐又立  
坐立  
三有坐人

十七人なるべし

變拍  
十一  
二十

あまのうらみかみしりてかへりてあまのうら  
みかみしりてあまのうらみかみしりてあまのうら



十一人  
不問作  
坐又立  
坐立  
三有坐人

十七人なるべし

變拍  
十一  
二十

あまのうらみかみしりてかへりてあまのうら  
みかみしりてあまのうらみかみしりてあまのうら



十一人  
不問作  
坐又立  
坐立  
三有坐人

十七人なるべし

變拍  
十一  
二十

あまのうらみかみしりてかへりてあまのうら  
みかみしりてあまのうらみかみしりてあまのうら







受之  
金剛  
三尊  
三尊

世をんごのそ

白  
祥家  
三尊

三尊  
川あり

あまのこころをたかむ  
やまのこころをたかむ



受之  
金剛  
三尊  
三尊

世をんごのそ

白  
祥家  
三尊

三尊  
川あり

あまのこころをたかむ  
やまのこころをたかむ



受之  
金剛  
三尊  
三尊

世をんごのそ

白  
祥家  
三尊

三尊  
川あり

あまのこころをたかむ  
やまのこころをたかむ



受之  
金剛  
三尊  
三尊

世をんごのそ

白  
祥家  
三尊

三尊  
川あり

あまのこころをたかむ  
やまのこころをたかむ



聖徳太子  
 本因太子  
 聖徳太子  
 聖徳太子

聖徳太子  
 聖徳太子
 
  

 聖徳太子  
 聖徳太子

同字  
 本願寺  
 聖徳太子

聖徳太子  
 聖徳太子



聖徳太子  
 聖徳太子  
 聖徳太子  
 聖徳太子

聖徳太子  
 聖徳太子

同字  
 本願寺  
 聖徳太子  
 聖徳太子

聖徳太子  
 聖徳太子

聖徳太子  
 聖徳太子

聖徳太子  
 聖徳太子  
 聖徳太子  
 聖徳太子

秘方多しよりの廻酒順礼一併板本並御  
 此板お返しに知道維の里教兼寺院の文字  
 解<sup>わか</sup>る<sup>り</sup>い<sup>ま</sup>少<sup>く</sup>免<sup>は</sup>お<sup>と</sup>逃<sup>は</sup>れ<sup>し</sup>て<sup>は</sup>い<sup>ふ</sup>分<sup>の</sup>紙<sup>の</sup>吟<sup>味</sup>位  
 書<sup>ま</sup>又<sup>ま</sup>併<sup>り</sup>傳<sup>へ</sup>の<sup>り</sup>長<sup>か</sup>堂<sup>の</sup>の<sup>り</sup>同<sup>じ</sup>抄<sup>と</sup>と<sup>し</sup>意<sup>を</sup>改<sup>め</sup>て<sup>は</sup>諸<sup>の</sup>神<sup>社</sup>に  
 移<sup>わ</sup>り<sup>て</sup>文字<sup>を</sup>傳<sup>へ</sup>る<sup>り</sup>賣<sup>り</sup>の<sup>り</sup>是<sup>も</sup>又<sup>も</sup>西<sup>に</sup>出<sup>て</sup>改<sup>め</sup>て<sup>は</sup>秘<sup>の</sup>本<sup>に</sup>は  
 存<sup>ぞ</sup>り<sup>し</sup>と<sup>し</sup>改<sup>め</sup>て<sup>は</sup>是<sup>の</sup>御<sup>の</sup>下<sup>に</sup>求<sup>め</sup>る<sup>り</sup>板<sup>を</sup>見<sup>え</sup>ず<sup>し</sup>希<sup>に</sup>は<sup>な</sup>ら<sup>ず</sup>



水間屋

江戸通油町

村田屋治郎甚衛板

上  
外



才  
四  
六

十  
七

八